

**【概要】**  
福岡高校は現在、都市計画道路の橋脚のため、ひびきりなしに車が通過する国道沿いにある。しかしここに博多の歴史を物語る空間がしっかりと息づいていた。道路の喧噪を背に、銀杏と愛嬌ある門柱に心ち取られた中庭に足を踏み入れると、学び舎の静かな空間が迎えてくれる。隣接する「博多百年蔵」の白壁とよく手入れされた庭木、そして昭和4年竣工の細部にまで装飾が施された洋式建築の本館校舎とのコントラストが美に美しい。この校舎は5年の歳月をかけて平成6年に修復工事を終えたもので、その丹念な仕事ぶりには、この高校と校舎を愛する関係者や卒業生たちの思いが痛いほど伝わってくる。熱心に学ぶ生徒たちのじやまにならぬよう気を付けて、市民に一度は訪れてもらいたい都心のスポットである。

（審査委員 西山 徳明）



### 福岡県立福岡高等学校

このたび、本校校舎が福岡市都市景観賞を受賞し、たいへんうれしく思っています。博多の歴史を見つめてきた学び舎と黄葉で輝く銀杏並木のコントラストがすばらしい景観を生み出しています。この恵まれた環境のなかで、生徒が公共の物を大切にする心を育てていきたいと考えています。  
（福岡県立福岡高等学校長 野見山 義隆さん）

所在地 博多区聖橋一丁目29番1号  
関係者 福岡県立福岡高等学校

**概要**  
用途 学校  
構造 鉄筋コンクリート造  
階数 3階建  
建築面積 2,215.13㎡  
（1929年建築の本館、北館、南館について）  
延床面積 6,663.99㎡（奥上）  
敷地面積 528.80㎡  
完成年月 1929年4月



### 九州大学事務局第一庁舎

九州大学事務局第一庁舎は、大正14年の竣工です。2階の貴賓室には歴代総長の肖像画が並び、協定締結や総長表敬などに使用されています。正面に建つ工学部本館（昭和5年竣工）とともに、九州大学を象徴する建造物として大切にされています。（九州大学総務部総務課長 立原 敏さん）

**【概要】**  
九州大学事務局第一庁舎は、煉瓦造2階建てで、大正14年の竣工である。この石材や煉瓦等の建築資材の一部は、大正3年に竣工し、同13年に消失した工学部本館のものがリサイクル利用されている。建築形態は両端部に翼部が張り出した典型的なI字形であるが、その建築的な表情は、見事な丹精さが感じられる。赤色のどつしりした煉瓦の壁に、独特な意匠でリスミカルに配置された縦窓と、建物の階層を明瞭に分離する白色の水平帯がコントラストに構成されて印象深さを与えている。必ずしも時代的な先駆性はないが、当時の九州のセセッション的な影響や新しい意匠への取り組みが随所に見られる。福岡市における煉瓦建築物の稀少な事例であり、その存在価値を高めている。  
（審査委員 竹下 徳和）  
※セセッション：分譲地。19世紀末から20世紀初葉にかけてドイツ・オーストリアに興った芸術の革新運動。

所在地 東区箱崎六丁目10番1号  
所属者 九州大学  
**概要**  
用途 事務本部庁舎  
構造 煉瓦造  
階数 2階建（一部3階建）  
建築面積 1,304.16㎡  
延床面積 2,709.87㎡  
完成年月 1925年3月

